

## 菊池の歴史 略年表

西暦	年号	菊池のうごき [ ]内の数字は菊池氏の代を示す	日本のうごき
		旧石器時代 松島遺跡など	
		縄文後期 三万田地域に集落が営まれる	
		縄文晩期 ワクド石集落(川辺から大津町杉水一帯)・大久保集落(林原)が営まれる	
		弥生中期 藤尾支石墓群できる	
		永(藤巻)に甕棺墓が作られる	
		弥生後期 古閑原集落(吉富)・うてな集落(台)・小野崎集落(小野崎)が営まれる	
		5世紀半ば 久米若宮古墳造られる	
		6世紀半ば 木柑子古墳造られる	527 磐井の反乱起こる
			538 仏教公伝(552説)
		6世紀後半 袈裟尾高塚古墳造られる	彩色の装飾古墳が発達
		山崎古墳造られる	
		尾足・妻越・松尾・岩下に横穴墓群造られる	新羅に任那滅ぼされる
		長明寺坂古墳群・蛇塚古墳造られる	
	用明中	僧日羅により橋田寺日羅山一乗院が開かれる『肥後国誌』	
		7世紀 平町・硯町・今寺(住吉)に横穴墓造られる	
		築地横穴群、瀬戸口横穴群造られる	645 大化改新はじまる
663			白村江の戦に日本敗れる
665		このころ、鞠智城築かれる(推定)	大野城・基肆城築かれる
696	持統 10	皮石(合志)郡の壬生諸石が唐より帰還し、追大弐の位と合志郡を授かる『日本書紀』・『合志川芥』	701 大宝律令
698		鞠智城・大野城・基肆城が修理される『続日本紀』	
709	和銅元	西寺の無量山西福寺開山と伝わる『菊池風土記』	710 奈良の平城京遷都
			712 『古事記』編纂
785	延暦 4	十連寺が建立される(郡寺)	720 『日本書紀』完成
793	" 12	川辺熊野座神社が勧請される	759 『万葉集』編纂
802	" 21	日吉山王七社(住吉日吉神社)が勧請される	794 京都の平安京遷都
806	大同元	鞍岳山観音寺と鞍岳山善光寺が建立される(征夷大將軍 坂上田村麻呂と伝わる)	797 『続日本紀』完成
807	大同 2	河原四宮神社が創建といわれる『菊池風土記』	
813	弘仁 4	袈裟尾山北福寺が建立と伝わる『肥後国誌』	
852	仁寿 2	円観僧都が久米に天台宗寺院を開基、山号は複数あり不詳『合志川芥』・『肥後国誌』	840 『日本後記』完成
860	貞観 2	合志郡を分けて山本郡を置く『三代実録』・『合志川芥』	
866	" 8	このころ田吹に鶯神社造営(国司紀夏井の悲恋に関わる)	撰関政治始まる
876	" 18	高永奈我神社が建立される	869 『続日本後記』完成

938	天慶元	輪足山東福寺を澄慶法印が開基『菊池風土記』	879 『文徳実録』完成
940	〃 3	国司尾藤隆房が平将門誅罰大願をなし、久米に宇佐八幡宮を勧請する『肥後国誌』	894 遣唐使廃止
	天徳中	田島に天徳寺を建立する(願主・開山僧不詳)	
985	寛和元	合志郡司後藤実重が村吉に近江の日吉神社を勧請する『肥後国誌』	901 『三代実録』完成
1000	長保2	このころ田島坂口に法起寺(奈良)式寺院を建立する(坂口廃寺遺跡) 合志郡の郡寺跡説がある	1001 清少納言『枕草子』 この頃紫式部『源氏物語』
1070	延久2	[1]藤原則隆 太宰府の荘官として菊池に来る 則隆 京都より岩本に大宝山円通寺本堂を奉遷	
1109	天仁2	[4]經宗 鳥羽院の武者所に出仕する	
	仁平中	このころ亀ヶ城に源為朝が居すると伝わる このころ加恵八幡宮・加恵諏訪宮が建立される	
1180	治承4	[6]隆直 平氏に反抗、太宰府を焼く(養和内乱)	源頼朝が挙兵
1182	寿永元	隆直 平氏追討使に攻められ、糧食が尽きて降る	1181 平清盛死す
1185	文治元	隆直 菊池家の「日足紋」を「並鷹羽紋」に改める	平家滅亡 鎌倉幕府成立
1186	〃 2	隆直 源氏軍に敗れて京都で義経に斬殺される	1192 頼朝征夷大將軍
	〃 〃	[5]經直 肥前で流鏑馬に出場し、落馬し死去	
	建久中	中原師員(後の竹迫氏)が合志郡の地頭職となる『肥後国誌』	
1221	承久3	[7]隆定 承久の変で敗れ、所領一部没収される	1231 貞永式目制定
	文永中	[10]武房 円通寺に15町を寄付	
1274	〃 11	武房 元寇で、博多に出陣する(文永の役) 北条定宗・随時が元寇軍事催促の途上、田島天徳寺を再興する 『合志川芥』・『肥後国誌』	
1281	弘安4	再度の蒙古襲来に一族で参戦する(弘安の役)	1293 鎮西探題設置
1304	嘉元2	[11]時隆 叔父と家督を争い、刺し違えて死ぬ 日置恒治が福本に千田聖母八幡宮を勧請する『肥後国誌』	1293 蒙古襲来絵詞できる
	元応中	東明慧日が久米に青原山寿勝寺(後の安国寺)を建立する(再興説もある)『肥後国誌』	
1327	嘉暦2		大智、加賀国に祇陀寺開く
1333	元弘3	[12]武時 鎮西探題を襲撃し討死(袖が浦の別れ)	鎌倉幕府滅亡
1335	建武2	箱根竹下の戦いで[13]武重勝利(菊池千本槍)	
1336	延元元	武村、新田義貞軍に属し苦戦、大渡橋上で討死	南北朝の対立
	〃 〃	武敏、足利軍と多々良浜(福岡)で戦うが敗れる	
	〃 〃	武吉、湊川の戦で楠正成らとともに自刃する	
1337	延元2	武重、寺尾野城で挙兵し、合志幸隆を攻める 佐々木長綱が延暦寺の寺領奉行として大津真木村に下向、のち姓を合志と改める『肥後国誌』	
1338	〃 3	武重 「寄合衆内談の事」(菊池家憲)を定める	
	〃 〃	少式頼尚、稗方原にて菊池勢と対戦する	
1339	〃 4	久米の青原山寿勝寺が肥後の安国寺となる『肥後国誌』	安国寺建立令下される

1341	興国 2	[14]武士 武重の死後、肥後守を継ぐ	
1344	〃 5	[15]武光 合志幸隆から菊池城を奪還し家督継承	
	〃 〃	武光、熊耳山正観寺を建て、菊池五山制を定める	
1348	正平 3	懐良親王、征西将軍として菊池に入る	
1351	〃 6	大智禅師、聖護寺を出て玉名の広福寺に入る	
1353	〃 8	懐良親王、武光らを率いて筑後高良山に布陣する	
1355	〃 10	武光、懐良親王ら九州北部を抑えて、太宰府を占領	倭寇の活動盛んになる
1359	〃 14	武光、懐良親王を奉じ、大保原(筑後川)合戦で勝利	1358 足利尊氏病没
1361	〃 16	征西府が太宰府に移される	
1362	〃 17	武光、長者原の戦いで大友・少弐軍を破る 高永奈我神社に赤銅製御供鉢が奉納される	
1365	〃 20	懐良親王、大宰府に征西府を置く(全盛時代)	
1367	〃 22	[16]武政、肥後守となって、菊池城(守山城)を築く	
1368	〃 23	懐良親王、武光らと東上計画(上洛)を決行し失敗	足利義満 将軍となる
1369	〃 24	明の使者が征西府にきて、倭寇の禁止を求める	
1370	建徳元	今川了俊(貞世)、鎮西探題となる	
1372	文中元	今川軍に征西府占領され、武光ら高良山へ退く	この頃『太平記』できる
1373	〃 2	武光死亡か?(74年武政も久留米の高良山で死亡)	
1374	〃 3	[17]武朝 懐良・良成親王を奉じ、隈府に帰る	
1375	天授元	武朝、今川了俊軍を水島の戦いで破る 懐良親王、征西将軍の職を良成親王に譲る	足利義満室町第に移る
1377	〃 3	武朝、肥前蜷打にて今川軍に破れて、肥後に退く	
1378	〃 4	武朝、阿蘇北の宮を勧請して、社殿(北宮神社)を建てる 武朝、良成親王らとともに今川・大友軍を詫麻原で破る 寺尾野の宝篋印塔が造られる	
1379	〃 5	今川軍、肥後に入り、板井原に陣し守山城を攻める	
1380	〃 6	今川軍、台(水島)城を落とす 貞継、肥後守護となる	
1381	弘和元	菊池本城、足利方の今川軍に攻められ落城する	
1383	〃 3	懐良親王亡くなる	
1384	元中元	武朝「申状」を吉野朝廷に差し出す『群書類従』	
1387	元中 4	合志鑑峯、橋田寺を修復する『肥後国誌』	
1392	〃 9	武朝、菊池に帰り、改めて肥後守護となる	南北朝が合一する
1407	応永 14	武朝死去[18]兼朝が家督を継ぐ	1397 義満金閣寺建造
1419	〃 26	蒙古・朝鮮軍が対馬を侵す 兼朝ら敵を撃退する	
1431	永享 3	馬か岳(福岡)合戦後、兼朝[19]持朝に家督を譲る	
1432	〃 4	持朝、筑後守護職となる	
1446	文安 3	持朝死去(兼朝死後2年目)[20]為邦が家督を継ぐ	1441 嘉吉の乱
1449	宝徳元	このころ菊池の文教盛んになる	
1452	享徳元	為邦、竺菴仲尖和尚を招き、江月山玉祥寺を建立する この頃、玉祥寺このみやおどりが始められると伝わる	
1456	康正 2	合志隆門が飛熊に城館を築き移住する『合志川芥』	

		この頃、住吉日吉神社雨乞太鼓が始められると伝わる	
1462	寛正 3	足利義政、筑後守護職の半分を大友政親に与える	
1465	〃 6	為邦、筑後領奪回のため大友と高良山で戦い敗れる	
1466	文正元	為邦、家督を[21]重朝に譲り、重朝肥後守となる	1467 応仁の乱起こる
1472	文明 4	重朝、隈府に孔子堂を建てる	
1477	〃 9	重朝、桂庵禅師を招き積奠の礼を行う。 住吉日吉神社の坂本左近が合志氏と争い(紅花事件)社殿で自刃する『合志川芥』・『肥後国誌』	応仁の乱終息
1481	〃 13	重朝、菊池で連歌一万句の会を催す	
1484	〃 16	合志重隆が住吉日吉神社を北住吉(現在地)に再建、また南住吉古閑に池の上城を築き移る『合志川芥』	
1485	〃 17	重朝、相良為統と矢部・幕平で戦って敗れる	
1493	明応 2	重朝死去、「22」武運が家督を継ぐ 阿佐古武貞が福本聖母八幡宮を再建し、隈部忠直が棟札を記す『肥後国誌』 このころ合志隆峯が天台宗僧光玄院清正坊を斬り、崇ありとして御霊社前田神社を建立する『合志川芥』	1489 銀閣寺建造
1501	文亀元	武運、宇土為光に叛かれ、島原にのがれる	
1503	〃 3	武運、能運と改名する	
	〃 〃	能運、城・隈部の助けをかりて、為光を破り、菊池に帰る	
1504	永正元	能運死去、菊池家正統絶え、[23]政隆 跡を継ぐ 合志隆岑、住吉から竹迫に移り合志郡を支配『合志川芥』	
1505	〃 2	政隆家臣に追われ阿蘇惟長が肥後守護となり、菊池武経と称す	
1509	〃 6	菊池政隆が菊池武経と久米原で戦い敗れて、安国寺で自刃する『合志川芥』・『肥後国誌』	
1511	〃 8	詫磨武包が菊池氏を継いで肥後守護となる 武包、大友氏に追われて菊池を去る	この頃大友氏勢力拡大
	永正中	竹迫氏の豊後移住に伴い、合志隆岑が竹迫城に入り、合志郡の地頭職を継ぐ『合志川芥』・『肥後国誌』	
1515	永正 12	焼失した安国寺が再建される	
1520	〃 17	大友重治(義宗)、菊池義武と称して肥後守護となる このころ、怒留湯氏が打越に入る	
1534	天文 3	義武、菊池を逃れ八代に行き、相良義滋を頼る	
1543	〃 12	大友義鑑(宗麟の父)、肥後守護に補任される	鉄砲が伝来する
1550	〃 19	田島氏が隈本の菊池と大友の戦いで菊池に加担し敗れて滅亡、田島 75 町歩が小代氏所領となる	1549 キリスト教伝来
1551	〃 20	赤星親家(道雲)、隈府城主となる	
1554	〃 23	大友義鎮(宗麟)、肥後守護職に補任される 義武、義鎮に誘殺され、菊池氏断絶する	
1556	弘治 2	城親賢により菊池万句が書写される	
1559	永禄 2	城・赤星・隈部氏(家老)勢力争い、大友氏これを利用	1560 桶狭間の戦い

1561	〃 4	親家病死し、子の親隆(道半)が隈府城主となる	
1578	天正 6	龍造寺政家が道半を破り、隈部親永を隈府城主に任じる このころ、橋田寺・長明寺など焼失	1573 室町幕府滅亡 1582 本能寺の変
1585	〃 13	竹迫の合志氏が薩摩島津に攻められ滅亡する『合志川芥』	
1587	〃 15	佐々成政が肥後守となり隈府城を落とす	肥後国衆一揆起こる
1588	〃 16	加藤清正と小西行長が肥後を分割領有する 加藤伝蔵が隈府城番となる	刀狩令(兵農分離)
1589	〃 17	菰入で河川改修が行われる	1594 太閤検地
	天正中	宣安和尚により華巖山広勝寺が開かれる	
1600	慶長 5	加藤清正肥後 52 万石を領有する	関ヶ原の戦い
1602	〃 7	菊池能運肖像画(菊池神社所蔵)が描かれる	
1603	〃 8		徳川家康江戸幕府を開く
1604	〃 9	肥後国検地帳・郷村帳を作成	諸街道に一里塚を築く
1607	〃 12	隈本を熊本と改める	熊本城が竣工
1608	〃 13		領内の総検地行われる
1611	慶長 16		清正熊本城にて病死
1612	〃 17	菊池為邦画像(碧巖寺・菊池神社寄託)が描かれる	幕府直轄領に禁教令
1613	〃 18	阿蘇山が大噴火を起こす	キリスト教禁止令
1615	元和元	一国一城令で隈府城は空城となる 大津街道に杉並木が植えられる	武家諸法度を定める
1619	〃 5	肥後大地震	麦島城(八代)が崩壊
1625	寛永 2		地震により熊本城損壊
1631	〃 8	妙蓮寺立町に創建される	
1632	〃 9	細川忠利が領主として小倉より移り熊本城入城	加藤家の肥後所領没収
1633	〃 10		第一回鎖国令
1634	〃 11	渋江公俊 天地元水神社を創立する この頃、手永制度が始まり合志郡を大津・竹迫両手永に分ける	
1635	〃 12	菊池の石高が約一万五千石となる	
1637	〃 14		天草・島原の乱起こる
1643	〃 20		阿部一族の乱起こる
	慶安中	天台宗僧某が『合志川芥』を執筆発行する	1657 明暦の大火
1664	寛文 4	切支丹影踏みの実施 北嶋雪山が藩庁に願い出て『国郡一統誌』の調査執筆にかかる	
1667	〃 7	熊本泰勝寺の春山和尚が円通寺を再興する	
1669	〃 9	北嶋雪山が異学(陽明学)の禁により藩庁をおわれる	
1672	〃 12	『嶋屋日記』が起筆される 隈府町大火 切明残らず焼失	
1676	延宝 4	7 月下町から出火 上下町焼失	
1680	〃 8	大飢饉で餓死者多数	
1685	貞享 2	水戸家臣 佐々助三郎来隈し一泊する。	
1687	〃 4	旧冬より疱瘡流行し子供ら 20 人死亡	生類憐みの令出される

1691	元禄 4	阿蘇山大荒れ大噴火	
1698	〃 11	河原左衛門の指揮で原井手起工(1701 竣工)	
1701	〃 14	西迫間井手起工(1703 竣工)	
1702	〃 15		赤穂浪士吉良邸に討入
1704	宝永元	今村井手(宝永隧道)起工(翌年竣工)	菊池米の声価上がる
1713	正徳 3		肥後藩の財政窮乏
1716	享保元	在町での商売取り締まり強化	享保の改革(徳川吉宗)
1723	〃 8	大地震で北宮神社の鳥居落ちる	
1725	〃 10	隈府町大火残らず焼失する(翌年も大火)	このころ寺子屋が普及
1727	享保 12	面山和尚により広勝寺再興される	
1728	〃 13	僧放牛が田島・南田島・加恵に放牛地藏を建立する(翌年水島建立)	
1732	〃 17	肥後藩大飢饉 幕府から二万両を拝借	
1737	元文 2		振売(行商)の禁止
1741	寛保元	この頃より菊池川舟運が最盛期になる	
1742	〃 2	大洪水により野間口など川筋損す	
1746	延享 3	澤村友武五輪塔が造られる	
1748	寛延元	渋江紫陽の私塾「集玄亭」が創立される	細川重賢の宝暦改革
1749	〃 2	旅商人の在中直売買を禁止	
1752	宝暦 2		
1753	〃 3	田畑の譲地・質を厳禁する	藤崎宮の富講興行
1754	〃 4	「菊池苔」を土産品として幕府へ献上『肥後録』・『上妻文庫』	1755 「時習館」開設
1757	〃 7	『菊池松囃子起源書』が書かれる	「再春館」開設
1764	明和元	蔵六庵を隈府町屋敷に創立する	
1765	〃 2	河原左衛門が河原井手を開く	
1768	〃 5	前代未聞の大旱魃(5～8月)畑作半毛	
1774	安永 3	細川藩主花房原で鷹狩りを行う	
		大洪水で合志川が氾濫し村が損壊、田島の村移りが行われる	
1776	〃 5	麻疹・疫痢・赤痢流行小児 60 人余死亡	
1778	〃 7	中嶋伊次郎「御触状諸達扣」を起筆	
1779	〃 8	渋江紫陽らの尽力で正観寺に武光新党碑(武光の墓)ができる	阿蘇山大爆発降灰飢饉
1782	天明 2	天明の大飢饉が全国に広がる	
1787	〃 7		寛政の改革(松平定信)
1792	寛政 4	雲仙岳大爆発(島原大変・肥後迷惑) 渋江松石の私塾「星聚堂」創立される	
1794	〃 6	渋江松石『菊池風土記』を著す	
1796	〃 8	松囃子能の定舞台ができる	辰の年大洪水
1810	文化 7		伊能忠敬測量で肥後へ
1813	〃 10	古川井手起工(1816 竣工)	
1816	文化 13	輪足山東福寺の歓喜院に武重の墓ができる。	
1818	文政元	大旱魃により深川・河原手永で水争い	

1823	〃	6	旧永山橋(眼鏡橋)が架橋される(備前石工・小板勘五郎)	
1825	〃	8		異国船打払令が出る
1827	〃	10	平山八左衛門らの尽力により兵藤井手着工	
1829	〃	12	迫間橋(眼鏡橋)が架橋される(石工・伊助)	
1833	天保	4	兵藤井手開通(水量不十分なため追工 1835 完全開通) この頃合志川が何度も氾濫し大きな被害をだす	この頃天保の大飢饉
1837	〃	8	凶作で物乞い・行き倒れがふえる	大塩平八郎の乱
	天保中		自忍和尚が円通寺を修復し、唐風の石門を建てる	1841 天保の改革(水野忠邦)
1843	天保	14	隈府下町で 170 軒焼失の大火	
1848	嘉永元		田島天満宮(菅原神社)宮司伊牟田泉が塾「清乃屋」を開く	
1853	〃	6	大津手永惣庄屋山隈権兵衛が湯舟の堤工事に着手(9年後に竣工)	ペリー黒船で来日
1854	安政元		矢部の通潤橋できる(布田保之助)	日米和親条約
1855	〃	2	井上英太右衛門により『菊池川全図』が作られる	
1860	万延元		立門橋(眼鏡橋)できる(宇一・橋本勘五郎の兄)	桜田門外の変
1864	元治元		禁門の変(蛤御門の変)で高木元右衛門死去(32 歳)	1867 大政奉還
1868	明治元			明治維新
1870	〃	3	菊池神社が創建される	1869 東京遷都
1871	〃	4	岩本神楽が始められる この頃、稗方神楽が始められると伝わる	
1876	〃	9	神風連の乱(吉村義節死去)	白川県から熊本県に改称
	明治初		田島菅原神社神楽が始められると伝わる	
1877	〃	10	西南の役で薩軍西覚寺に本陣を置く 官軍川辺・妻越・伊萩に 進撃、平真城村、南田島で激戦後、薩軍敗走	西南の役
1878	〃	11	現永山橋(眼鏡橋)が架橋される(種山石工・橋本勘五郎) 湯舟神楽が始められる 富田甚平、束竹による暗渠排水法に成功	1879 教育令制定
	明治半		この頃菊池の養蚕製糸業が日本一になる	
1891	〃	24	川辺熊野座神社神楽が始められる	1889 市町村制施行
1894	〃	27		日清戦争
1895	〃	28	泗水出身の増田敬太郎巡查、コレラ防疫のため佐賀で殉職	
1904	〃	37		日露戦争
1906	〃	39	住吉日吉神社神楽が始められる	
1910	〃	43	泗水社操業開始	
1911	明治	44	隈府に桜座着工(翌年しゅん工)	
1913	大正	2	菊池軽便鉄道(菊池軌道→菊池電気鉄道)高江・隈府間開通	1914 第一次世界大戦
1925	大正	14	合志川に姫井橋(馬橋)架橋される	1923 関東大震災
1931	昭和	6	昭和天皇、陸軍特別大演習を小野崎より統監	満州事変
1936	〃	11		二・二六事件
1941	〃	16	菊池(花房)飛行場竣工、陸軍飛行学校開校	1937 日中戦争
1944	〃	19	映画「菊池千本槍」上映される	

1945	〃	20	花房飛行場空襲を受けほぼ全壊	終戦
1954	〃	29	菊池温泉湧出 砦村・加茂川村・清泉村が合併し七城村となる	1947 日本国憲法制定
1955	〃	30	泗水村・田島村と三万田区が合併し泗水村となる	
1956	〃	31	旭野村・北合志村が合併し旭志村となる	
1958	〃	33	菊池町から菊池市となる	
1961	〃	36	泗水村から泗水町となる	1960 カラーテレビ
1964	〃	39	七城村から七城町となる	東京オリンピック開催
1968	〃	43	菊池広域消防本部が発足	
1986	〃	61	菊池電気鉄道の御代志・隈府間が閉鎖	
1999	平成	11	第 54 回国民体育大会(くまもと未来国体)が熊本で開催	
2005	〃	17	菊池・七城・旭志・泗水が合併し菊池市となる	